

平成26年度

長野市立通明小学校



通明小だより

平成26年7月19日号

学校長 酒井好和

子どもたちの安心・安全な生活、ホワイトリングでの運動会等、地域の皆様、保護者の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

おのれ ほつ ところ ひと ほどこ なか

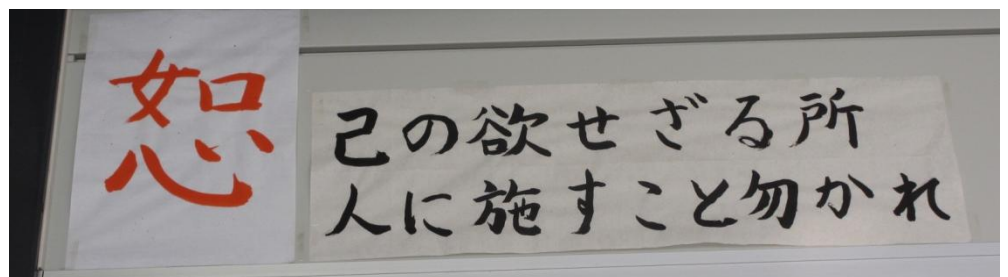
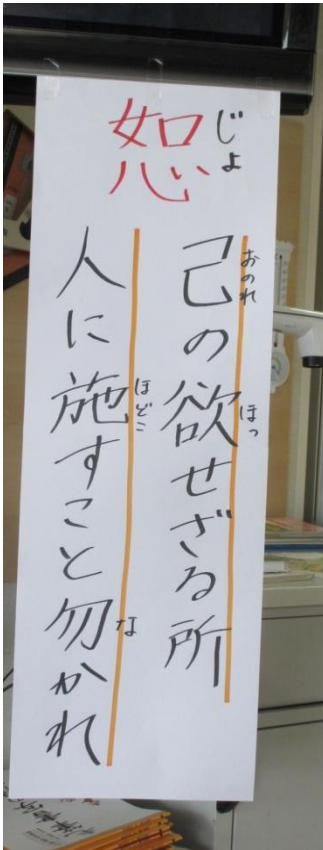
己の欲せざる所 人に施すこと勿れ

今から二千五百年前、中国に「孔子（こうし）」という立派な方がいました。その孔子の教えをまとめた本を「論語」と言います。皆さんの中にも聞いたことがある人もいると思います。

ある時、孔子のお弟子さんの子貢（しこう）が孔子に、「人として生きていく上で、一番大切なことを、ひとつの言葉で言うとしたら、何でしょうか」と聞きました。孔子は「それは『恕（じょ）』という言葉だ」と答えました。『恕』という言葉の意味は、思いやりの心、ということです。

「思いやりの心」とは、具体的にどんなことでしょうか。孔子は「恕」と答えた後、続けて「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」と言いました。「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」の意味は、「自分が人からされたら、いやだなと、思うことは、人にはしてはいけません。いつも、相手を思う、いたわりの心をもてたらいいですね」ということです。「自分が人からされたら、いやだなと、思うことは、人にはしない。いつも相手を思う、いたわりの心をもつこと」という『恕』の心は、孔子が教えてくれているとおり、私たちの心の中にしっかり焼き付けなければならない大切なものだと思います。

なかよし旬間が始まりました。「思いやりの心」をもって、友だちと仲良くしていきましょう。今回は、「人として生きていく上で大切なことの一つ『恕』の心」についてお話をしました。



※ 先月の仲よし旬間で、『恕』と言う言葉について、児童へ話しました。「自分が人からされたら、いやだなと、思うことは、人にはしない。いつも相手を思う、いたわりの心をもつこと」。児童の心に育んでまいりたいと思います。

(写真のように、各教室でも、担任より掲示したり考えあったりしてもらっています。心に残してほしい言葉です)。

705名の児童をご家庭に戻す、夏休みとなりました。長期休みならではの体験が児童の成長を促すだろうこと、楽しみに感じています。

そのような期待いっぱいの休みではありますが、例年、特に水難事故の悲報が耳に届きます。海や川へ遊びに出かける機会もあろうかと思えます。くれぐれも安全にご留意いただきますようお願いいたします。

また、昨年度は、夏休み中に、中学生の悲しい自転車事故もありました。ヘルメット着用はもちろん、飛び出しは絶対にしないといった点、ご家庭でも、重ねてご指導をお願いいたします。

あいさつは、まほうの言葉

今年度は、「あいさつは、まほうの言葉」を合い言葉に、通明小のあいさつをよりよくしていこうと取り組んでいます。校内でも、あいさつの標語を掲示し、明るいあいさつができるように声がけをして、あいさつをすることの良さを伝えてきました。自分からあいさつができる子が少しずつ増えてきていることを感じています。

安心パトロールをしていただいた方のコメントにも、

「丸十温泉の前で工事をしています。その警備の方が車を停めてくださった時に、『ありがとうございます。』と元気よく言っていました。」

『お帰り』と声をかけると、『ただいま』と返してくれ、『気をつけて帰ってね。』と声をかけると、手を上げて『はいよー。バイバイ!』と返してくれる子がいて、嬉しく感じました。」

「天気が曇りということもあり、涼しかったためか、子どもたちも楽しそうに下校していました。あいさつもよくしてくれました。」

「連日、暑い日が続きます。子どもたちは元気だなと思いました。子どもたちから、あいさつをされ、気持ちよかったです。」と、あいさつがんばっているねと感じられるコメントも寄せられるようになってきました。安心パトロールの皆様、平素から子どもたちの登下校を見守り、声がけをしていただき、ありがとうございます。

さて、2学期のあいさつ目標は、すぐにあいさつをすることです。明るく、すぐにあいさつが言える、またあいさつを返せる力が育つように支援してまいります。引き続きご協力をお願いします。

なかよし旬間・読書週間



なかよし集会で姉妹学級と楽しく交流



高学年が低学年にやさしく読み聞かせ

韓国交流週間・ロング音楽集会



韓国のテソン初等学校へ送るビデオ撮りをしました



韓国の歌を全校で歌いました

